問4　まちづくりセンターの支援により、皆さんの地域において、支援を受ける前よりも自律的な地域運営に取り組めていると思いますか。（○印は1つ）

	①そう思う	②ややそう思う	③あまりそう思わない	④思わない	⑤わからない	無回答	合計	①＋②
26年8月末	17.6%	38.2%	17.7%	8.1%	18.4%	0.0%	100.0%	55.8%
28年1月末	29.3%	40.4%	13.8%	1.8%	14.7%	0.0%	100.0%	69.7%
増減	11.7	2.2	▲ 3.9	▲ 6.3	▲ 3.7	0.0		13.9

3　事業実施成果の振り返り

(1)「組織運営」について

「(4) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」で

ア　自律的運営が進んだ項目

ステージ1：「増減」が20以上あった項目

項目（増減）	効果のあった支援策（取組）	支援策（取組）でよかった点、効果的であった点
①広報担当者を置いている。(60.9%)	広報紙の制作支援	PC、スマートフォンなどのツールを使える人を中心に、従来の役員層ではない人を中心に人選することを役員層へ働きかけた。
②活動内容（案内や実施報告等）を地域の広報紙、回覧板や掲示板などに掲載し、周知している。(60.0%)	広報紙の制作支援	WORDで編集可能なひな型のデータを提供した。

ステージ2・3「増減」が10以上あった項目

項目（増減）	効果のあった支援策（取組）	支援策（取組）でよかった点、効果的であった点
④議決機関（総会・運営委員会等）が必要に応じ定期的に開催され、さまざまな意見が反映されている。(100%)	地活協の成熟度に応じた自律支援	総会の運営支援等、開催が必須の会議以外の議題設定を地活協の成熟度別に支援した。
④事業計画書及び収支決算書等に関する書類や会計に関する情報を、地域の広報紙、回覧板や掲示板などに掲載し、周知している。(100%)	広報紙の制作支援	WORDで編集可能なひな型のデータを提供した。
⑤財産台帳を作成している。(100%)	財産台帳の提供	同上
⑥地域活動協議会が運営する電子広報媒体を活用して、事業計画書及び収支決算書等に関する書類が閲覧できるようになっている。(18.2%)	ブログの制作・運営支援	文書ファイルをスマートフォン等で撮影しアップロードする方法を伝達し、公開の作業的な負担が軽減された。
⑦会計ソフト等を活用して、電子媒体により会計の処理を行っている。(63.6%)	会計の自律支援	事業計画書・報告書のWORDファイルに加え、支出内訳表などのEXCELデータ一式を地域へ提供した。
③地域活動協議会が運営する電子広報媒体を活用して、活動内容（案内や実施報告等）の情報発信を行っている。(90.9%)	ブログの制作・運営支援	アカウント獲得、ブログタイトル、記事カテゴリ等の初期設定を中間支援組織がおこなった。

イ　自律的運営があまり進んでいない項目

ステージ1：「増減」が10以下（マイナス含む）であった項目

項目（増減）	足りなかった支援策・今後必要な支援策	足りなかった理由・今後必要と考える理由

ステージ2・3：「増減」が5以下（マイナス含む）であった項目

項目（増減）	足りなかった支援策・今後必要な支援策	足りなかった理由・今後必要と考える理由
⑤議決機関（総会・運営委員会等）の議事録を地域の広報紙、回覧板や掲示板などに掲載し、周知している。(0%)	広報紙の制作支援	地域が考える情報発信の頻度（年1～2回）に対して、運営委員会の実施回数が多く、毎回発信する必要性を感じていない。
⑥議決機関（総会・運営委員会等）の構成員の交替等により、地域活動協議会内で運営の方法等が継承され、蓄積されている。（世代間継承等）(0%)	地活協の自律支援	今年度が初めての大きな役員改選期にあたり、現在進行中である。
⑦地域活動協議会が運営する電子広報媒体を活用して、議決機関（総会・運営委員会等）の議事録が閲覧できるようになっている。(0%)	ブログの制作・運営支援	引き続き、掲載してもらえるように伝えていく。
④さまざまな活動主体と連携・協働した広報活動ができている（広報経路（ルート）が広がっている）。(0%)	広報紙の制作支援	連携・協働する相手が不在であること、また連携して大きくしていく類の事業が現状では見受けられないため。
⑤広報担当者が著作権や個人情報の保護、管理等について理解している。(0%)	広報紙の制作支援 ブログの制作・運営支援	8月開催の「なにわ区ラボ」では全地活協に情報提供を予定しており、達成できる見通しである。
⑥電子広報媒体による、地域活動協議会と住民や活動主体等の双方向の情報発信が活発に行われている。(0%)	ブログの制作・運営支援	心無いコメントやレスポンスに対する警戒心が根強く、必要性を感じていない。現状Facebookの「シェア」で事足りている。

(2)「つながりの拡充」について

「(4) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」で

ア　自律的運営が進んだ項目

ステージ1：「増減」が20以上あった項目

項目（増減）	効果のあった支援策（取組）	支援策（取組）でよかった点、効果的であった点
③新たな活動主体（担い手）の参画に向け、意見交換や話し合いなどの交流をする場を設けるなどの取組を行っている。（27.3%）	井戸端会議の運営支援	昨年度、浪速区の地活協会長と共に榎本地活協（鶴見区）の井戸端会議を見学し、実施の機会を探ってきた。

ステージ2・3「増減」が10以上あった項目

	効果のあった支援策（取組）	支援策（取組）でよかった点、効果的であった点
②イベント等への参加の呼びかけをさまざまな媒体を活用したり、さまざまな活動主体間で連携・協働するなどして、効果的に行っている。（90.9%）	ブログの制作・運営支援	チラシの画像をブログにも掲載するなどして、負担が少なくおこなえている。
③イベント等への参加の呼びかけをITの活用等（SNSなど多様な媒体の活用）により効果的に行っている。（72.7%）	ブログの制作・運営支援	誰でも閲覧できるようになり、告知が円滑にできるようになった反面、地域外の参加者が集まりすぎることへの警戒心がある。
②地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体との間で、連携・協働して取組を行うことができている。（27.3%）	中間支援組織の運営	中間支援組織へCSR活動を実施したい企業からの問い合わせがあり、連携できる地活協をいくつか紹介した。

イ　自律的運営があまり進んでいない項目

ステージ1：「増減」が10以下（マイナス含む）であった項目

	足りなかった支援策・今後必要な支援策	足りなかった理由・今後必要と考える理由
①地域活動に関わりの薄かった住民が参加し、つながりを実感してもらえるように取組に工夫を行い実施している。（0%）	地活協の認知度の向上	個々の地活協は事業運営で疲弊しており、新たな取り組みに着手する余裕は少ない。中間支援組織がその部分を補完できるよう取り組んでいきたい。
①地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体との交流の場（意見交換や話し合いなど）に参加し、情報共有している。（0%）	地活協の認知度の向上	同上
①地域公共人材の意義について理解している。（0%）	制度の説明	地域公共人材の役割は、現行の中間支援組織で対応可能であり、できない場合に限り中間支援組織から派遣要請できる形が望ましい。

ステージ2・3：「増減」が5以下（マイナス含む）であった項目

	足りなかった支援策・今後必要な支援策	足りなかった理由・今後必要と考える理由
④これまで参画していなかった、新たな活動主体の参画により、これまでにない、新たな取組や連携・協働ができている。（0%）	地活協の自律支援	役員改選を契機に、新たな取り組みと、それに取り組む体制づくりへのニーズがあれば支援をおこなう
⑤地域活動協議会を構成する活動主体内や活動主体間で、取組実施や連携・協働の技術・手法（ノウハウ）が継承され、地域活動協議会内に蓄積されている。（世代間継承等）（0%）	地活協の自律支援	今年度が初めての大きな役員改選期にあたり、現在進行中である。
③地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体とのネットワークができており、連携・協働して取組を継続的に行うことができている。（0%）	地活協の認知度の向上 広報紙の制作支援	構成団体以外の団体が、連携先として地活協を選択するために、地活協の活動意義を中間支援組織が伝えていく。
②新たな活動の企画検討の場等で地域公共人材を活用した。（0%）	制度の説明	地域の事情を知らない人に対して、地域が課題解決を依頼することは現実的ではないと思われる。
③地域公共人材バンクを積極的に活用して、さまざまな活動主体との連携・協働を実現している。（0%）	制度の説明	同上

(3)「地域課題への取組」について

「(4) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」で

ア　自律的運営が進んだ項目

ステージ1：「増減」が20以上あった項目

	効果のあった支援策（取組）	支援策（取組）でよかった点、効果的であった点

ステージ２・３「増減」が10以上あった項目

	効果のあった支援策（取組）	支援策（取組）でよかった点、効果的であった点
⑥地域資源（ヒト、モノ、カネ、情報）が有効に活用され、地域課題の解決が図られている（100％）	地活協の自律支援 なにわ区ラボ	個々の地活協への中間支援と、なにわ区ラボ等による全体の情報共有の場が有効に機能していると思われる。
⑦テーマや必要に応じて、（当事業以外の）適切な中間支援組織が活用されている（100％）	中間支援組織の運営	まちづくりセンターに常駐している地域まちづくり支援員が、会長のみならず、会計や事業担当者にも認知され、気軽に相談できる雰囲気と体制ができている。

イ　自律的運営があまり進んでいない項目

ステージ１：「増減」が10以下（マイナス含む）であった項目

	足りなかった支援策・今後必要な支援策	足りなかった理由・今後必要と考える理由
②地域の将来像の共有ができている（0％）	地活協の自律支援	今年度会長が交代した地活協に対して、次年度の計画づくりに際して必要な取り組みを入念にヒアリングし、反映させていく。
①法人格取得の意義について理解している（0％）	地活協の自律支援	NPO法人として活動する地活協を「なにわ区ラボ」に招いて情報提供したが、地域はその必要性を感じていない。

ステージ２・３：「増減」が5以下（マイナス含む）であった項目

	足りなかった支援策・今後必要な支援策	足りなかった理由・今後必要と考える理由
⑧地域資源（ヒト、モノ、カネ、情報）が有効に活用され、継続安定的に地域課題の解決が図られている（0％）	地活協の認知度の向上	世代交代が確実に進むよう、地域活動の必要性を「広報なにわ」紙上で訴え続けているが、並行して担い手の獲得についても地域と連携しながら取り組んでいく。
②地域活動の進捗に応じて、法人格の取得に向けた検討を行っている。（0％）	地活協の自律支援	そもそも、地活協の将来像として法人化がふさわしいのか、地域の中で議論・検討する必要があると考える。
③地域活動の状況に応じて、法人格の取得に向けた取組を行い、取得している。（0％）	地活協の自律支援	同上